

平成18年度決算概要



1. 全会計について

平成18年度の益子町の全会計の歳入総額は13,090,684,273円、歳出総額は12,660,066,493円で、歳入歳出差引額は430,617,780円となっており、平成17年度決算額と比較しますと、歳入は54,518,332円(△0.4%)、歳出は64,125,887円(△0.5%)とそれぞれ減額し、差引額は9,607,555円(2.3%)の増額となっております。

単位:円、%

会計名		平成18年度決算額	平成17年度決算額	増減額	増減率
一般会計	歳入	6,855,387,073	6,899,509,522	△44,122,449	△0.6
	歳出	6,608,239,803	6,695,882,517	△87,642,714	△1.3
	差引額	247,147,270	203,627,005	43,520,265	21.4
国民健康保険特別会計	歳入	2,604,590,439	2,507,637,983	96,952,456	3.9
	歳出	2,505,448,506	2,416,515,358	88,933,148	3.7
	差引額	99,141,933	91,122,625	8,019,308	8.8
老人保健特別会計	歳入	1,778,438,946	1,943,862,604	△165,423,658	△8.5
	歳出	1,734,496,206	1,867,932,950	△133,436,744	△7.1
	差引額	43,942,740	75,929,654	△31,986,914	△42.1
介護保険特別会計	歳入	987,216,855	968,021,493	19,195,362	2.0
	歳出	956,996,184	938,477,571	18,518,613	2.0
	差引額	30,220,671	29,543,922	676,749	2.3
公共下水道事業特別会計	歳入	428,785,820	570,768,066	△141,982,246	△24.9
	歳出	422,079,283	553,731,091	△131,651,808	△23.8
	差引額	6,706,537	17,036,975	△10,330,438	△60.6
農業集落排水事業特別会計	歳入	436,265,140	255,402,937	180,862,203	70.8
	歳出	432,806,511	251,652,893	181,153,618	72.0
	差引額	3,458,629	3,750,044	△291,415	△7.8
合計	歳入	13,090,684,273	13,145,202,605	△54,518,332	△0.4
	歳出	12,660,066,493	12,724,192,380	△64,125,887	△0.5
	差引額	430,617,780	421,010,225	9,607,555	2.3

*平成18年度決算書が、役場・中央公民館・改善センター・あぐり館に備え付けてありますのでそちらもご参照ください。



2. 一般会計決算概要

平成 18 年度の一般会計の歳入総額は 6,855,387 千円、歳出総額 6,608,240 千円で、歳入歳出差引額（形式収支）は 247,147 千円となりました。

形式収支から翌年度に繰り越すべき財源 2,468 千円を控除した実質収支は 244,679 千円の黒字となっており、このうち 150,000 千円を財政調整基金に積み立てし、残額は平成 19 年度への繰越金としております。また、単年度収支については、前年度の実質収支額を上回ったことにより 57,131 千円の黒字となっており、実質単年度収支は、繰上償還を 25,096 千円、基金取崩しを 20,000 千円行っていることから、62,408 千円となり平成 12 年度以来の黒字となっております。

財政状態を示す財政指標のうち経常収支比率は 90.1%と前年度から 4.7 ポイント悪化しました。これは、普通交付税の減少と公債費の増加によるところが大きく影響しており、普通交付税の減少が見込まれている現在、経常収支比率の更なる悪化と財政の硬直化が予測されます。さらに、公債費比率は 14.4%で前年度から 1.7 ポイント悪化しており、この指標からも財政構造の硬直化が読み取れます。

平成 18 年度末の地方債の残高は、7,761,655 千円で前年度末より 76,240 千円減少しました。しかしながら、この金額は歳入の 1.13 倍に相当し、依然高水準にあることに変わりはありません。これは地方交付税の代替措置である臨時財政対策債と住民税減税の代替措置である減税補てん債の発行によることが大きな要因です。

一方、財政調整基金残高は、前年度から 80,180 千円増加し 411,058 千円となっており、緩やかな回復傾向にあるものの、依然低い水準のままであることから、さらなる積立を図ってゆく必要があります。

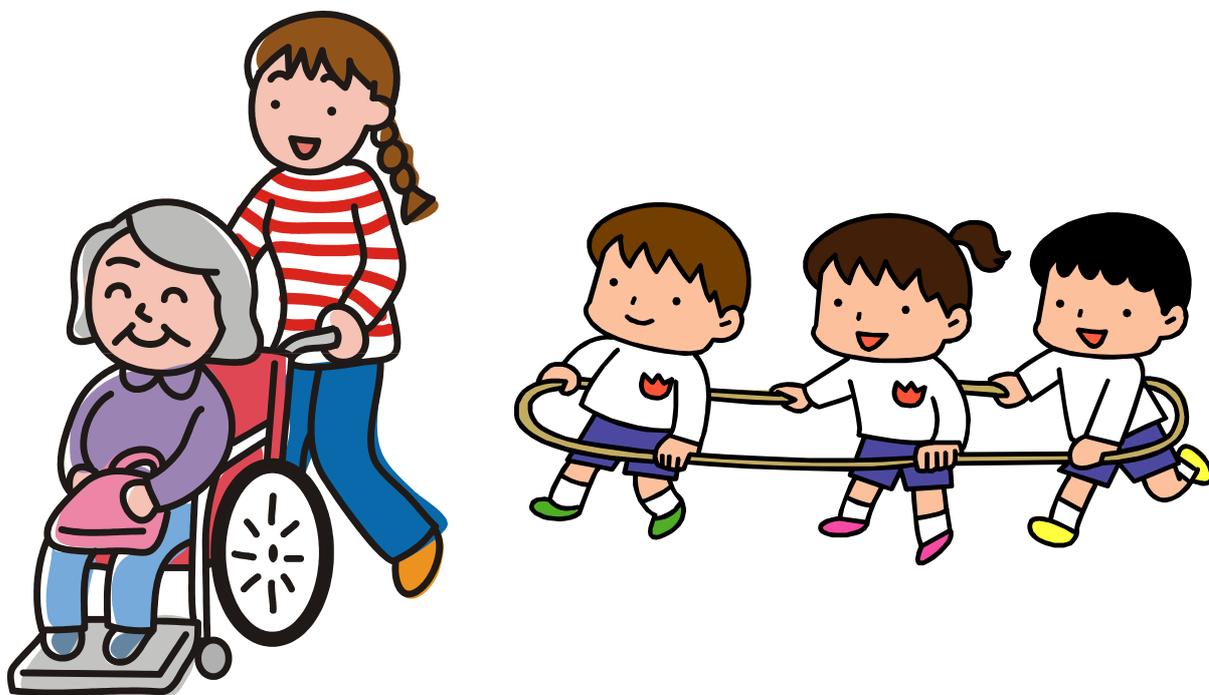
歳入のうち自主財源は 2,857,132 千円、自主財源比率は 41.7%となっており、前年度と比較しますと額で 14,116 千円の減、率では 0.1 ポイントの増加となっております。また、依存財源は 3,998,255 千円で 58.3%、前年度対比で 30,007 千円、0.1 ポイントの減となっており、これは、町税の増加（前年度比 86,118 千円増）と地方交付税の減少（前年度比 135,155 千円減）によるものです。

歳出のうち消費的経費は 3,870,620 千円で、前年度対比 133,202 千円（3.3%）の減となりました。内訳としては、人件費及び補助費等が減少し、物件費及び扶助費が微増となっております。投資的経費は 1,044,696 千円で、前年度対比 124,877 千円（13.6%）の増となっており、これは、平成 17 年

度からの繰越事業（97,826千円）と災害の発生（29,042千円）によるものです。その他の経費は、1,692,924千円で、前年度対比79,318千円（4.5%）の減となっております。これは、貸付金において大塚実基金貸付金を80,000千円から50,000千円に縮減したことによるものです。

平成18年度の主な事業

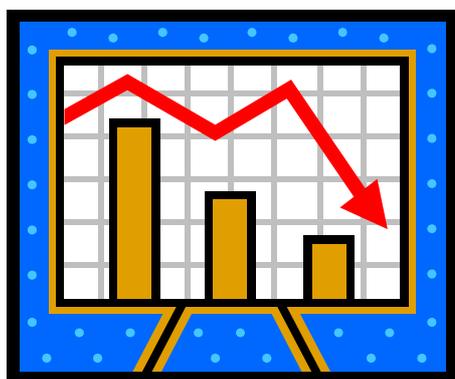
● 障害者扶助	226,779千円
● 老人扶助	43,138千円
● 民間保育所入所運営	378,708千円
● 児童手当	138,470千円
● こども医療費助成事業	46,662千円
● 芳賀中部上水道団企業団補助金	50,326千円
● 芳賀台地土地改良事業負担金	60,685千円
● 大塚実基金融資資金貸付	50,000千円
● 道路改良・舗装・修繕工事	109,335千円
● 北公園整備	107,241千円
● 都市計画道路	129,681千円
● 七井中央通り負担金	178,000千円
● 七井区画道路整備負担金	163,000千円



平成18年度一般会計歳入歳出決算

(単位:千円、%)

歳 入			歳 出		
区 分	金 額	構成比	区 分	金 額	構成比
○ 自主財源	2,857,132	41.7	○ 消費的経費	3,870,620	58.6
町 税	2,287,131	33.4	人 件 費	1,343,508	20.3
分担金及び負担金	138,255	2.0	物 件 費	533,868	8.1
使用料及び手数料	50,746	0.7	維 持 補 修 費	26,945	0.4
財 産 収 入	5,473	0.1	扶 助 費	864,292	13.1
寄 附 金	3,000	0.1	補 助 費 等	1,102,007	16.7
繰 入 金	152,079	2.2	○ 投資的経費	1,044,696	15.8
繰 越 金	103,627	1.5	普通建設事業費	1,008,129	15.2
諸 収 入	116,821	1.7	災害復旧事業費	36,567	0.6
○ 依存財源	3,998,255	58.3	失業対策事業費	0	0.0
地方譲与税	305,874	4.5	○ その他の経費	1,692,924	25.6
利子割交付金	8,146	0.1	公 債 費	843,246	12.8
配当割交付金	8,776	0.1	積 立 金	1,941	0.0
株式等譲渡所得割交付金	6,452	0.1	投資・出資金及び貸付金	80,000	1.2
地方消費税交付金	218,008	3.2	繰 出 金	767,737	11.6
ゴルフ場利用税交付金	84,208	1.2			
自動車取得税交付金	65,992	1.0			
地方特例交付金	53,827	0.8			
地方交付税	1,623,687	23.7			
交通安全対策特別交付金	2,959	0.0			
国庫支出金	599,263	8.7			
県 支 出 金	389,963	5.7			
町 債	631,100	9.2			
歳入合計	6,855,387	100.0	歳出合計	6,608,240	100.0



3. 国民健康保険特別会計決算概要

平成 18 年度の国民健康保険特別会計の歳入総額は 2,604,590 千円、歳出総額は 2,505,449 千円で、歳入歳出差引額（形式収支）は 99,142 千円となりました。このうち 53,000 千円を財政調整基金に積立し、残額は平成 19 年度への繰越金としております。前年度と比較しますと歳入は 96,952 千円（3.9%）、歳出は 88,933 千円（3.7%）とそれぞれ増額となっております。これは、保険給付費が 47,424 千円、共同事業拠出金が 114,115 千円増加し、老人保健拠出金が 72,186 千円、介護納付金が 4,297 千円減少したことによるものです。

なお、保険税の収納率は 70.2% で前年度から 0.9 ポイント改善されました。



4. 老人保健特別会計決算概要

平成 18 年度の老人保健特別会計の歳入総額は 1,778,439 千円、歳出総額は 1,734,496 千円で、歳入歳出差引額（形式収支）は 43,943 千円となりました。前年度と比較しますと歳入は 165,424 千円（△8.5%）、歳出は 133,437 千円（△7.1%）とそれぞれ減額となっております。これは、老人医療受給者（H18 2,827 人、H17 3,002 人、△5.8%）が減少したことによるものです。



5. 介護保険特別会計

平成 18 年度の介護保険特別会計の歳入総額は 987,217 千円、歳出総額は 956,996 千円で、歳入歳出差引額（形式収支）は 30,221 千円となりました。前年度と比較しますと歳入は 19,195 千円（2.0%）、歳出は 18,519 千円（2.0%）とそれぞれ増額となっております。これは、平成 18 年度から介護予防事業が始まったことによります。

また、介護保険特別会計は、平成 18 年度から保険事業勘定とサービス事業勘定の 2 本立てとなっております。なお、保険料の収納率は 99.2% で前年度と同率となっております。



6. 公共下水道事業特別会計

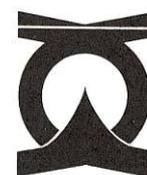
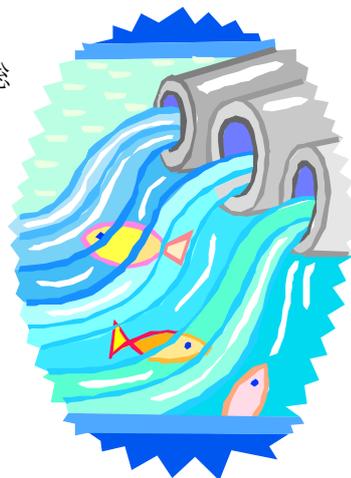
平成 18 年度の公共下水道事業特別会計の歳入総額は 428,786 千円、歳出総額は 422,079 千円で、歳入歳出差引額（形式収支）は 6,707 千円となり、形式収支から翌年度に繰り越すべき財源 194 千円を控除した実質収支は 6,513 千円の黒字となっております。前年度と比較しますと歳入は 141,982 千円（△24.9%）、歳出は 131,652 千円（△23.8%）とそれぞれ減額となっております。これは、平成 17 年度で浄化センター増設工事（H 17 事業費 183,000 千円）が終了したことによりです。

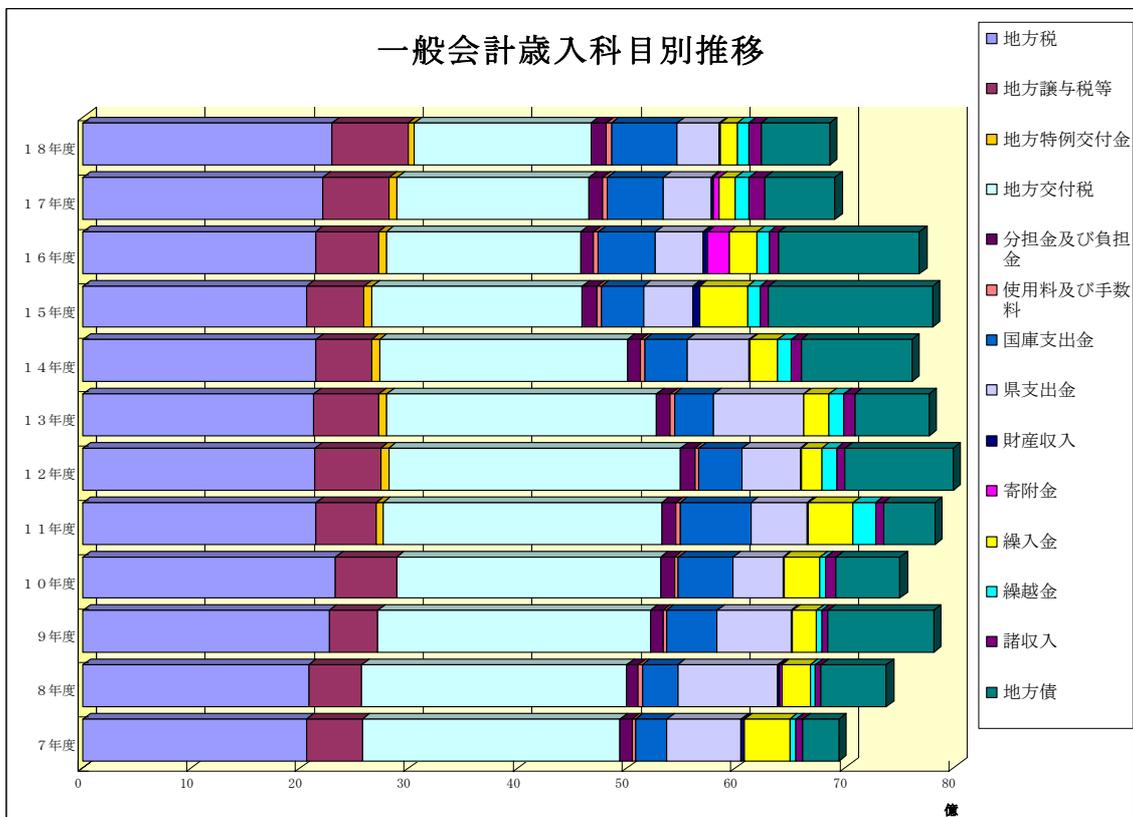
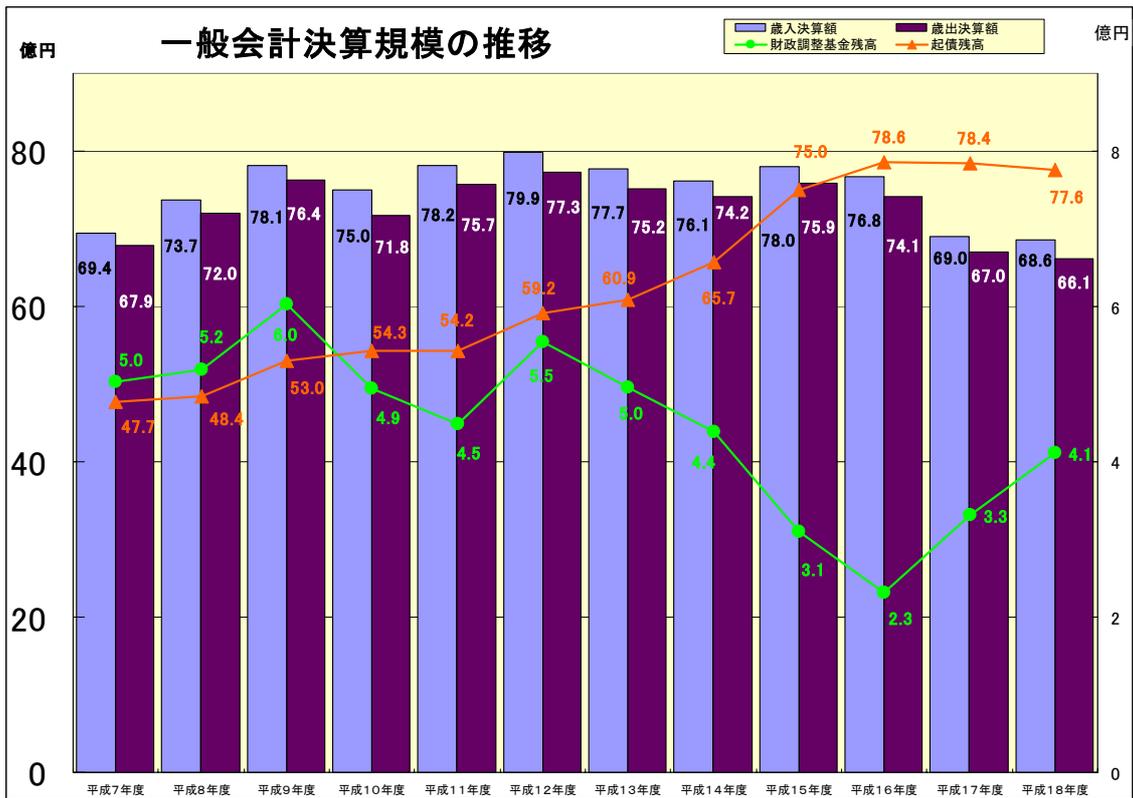


なお、水洗化率は 67.2% で前年度より 1.2 ポイント増加しました。

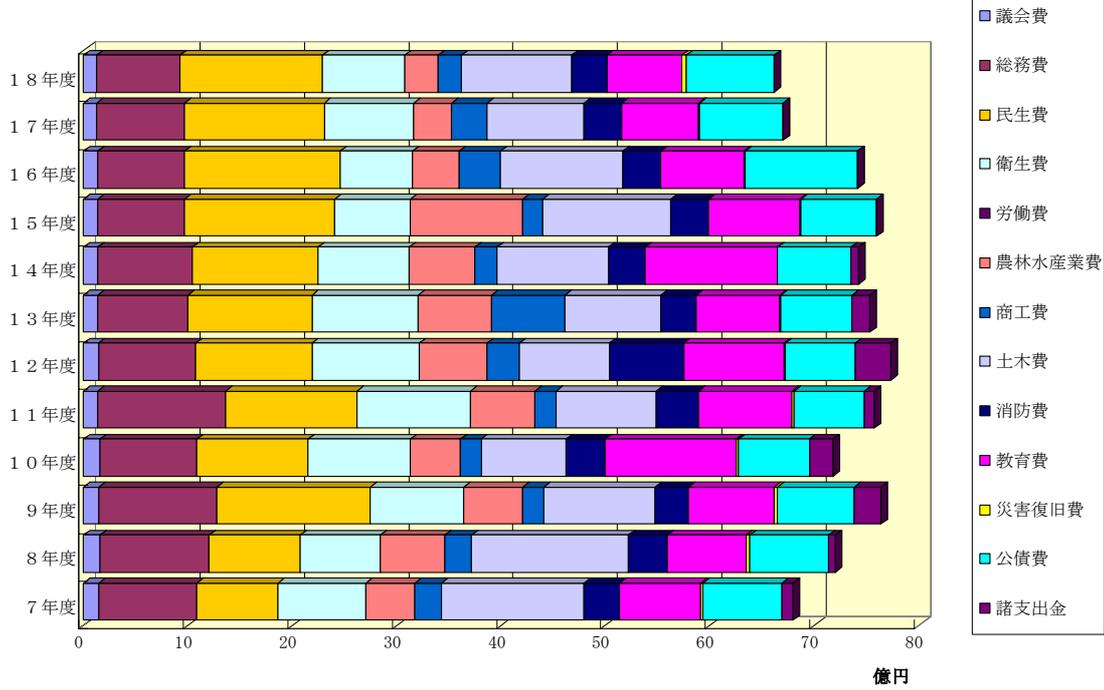
7. 農業集落排水事業特別会計

平成 18 年度の農業集落排水事業特別会計の歳入総額は 436,265 千円、歳出総額は 432,806 千円で、歳入歳出差引額（形式収支）は 3,459 千円となりました。前年度と比較しますと歳入は 180,862 千円（70.8%）、歳出は 181,154 千円（72.0%）の大幅な増加となっております。これは、東田井地区の処理施設工事等によるものです。





一般会計歳出推移（目的別）



一般会計歳出推移（性質別）

